

生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター細江
担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和 7年 11月 26 日 （ 水 ） 13 時 30分 ～ 15 時 00分
2 開催場所	みをつくし文化センター 大研修室
3 参加者	協議体委員17名（地区15 名、事業所2名） 関係機関17名（高齢者福祉課：2名、北区長寿保険課1名、コミュニティ担当3名、 地域包括支援センター細江：3名、市社協地域支援課：1名、市社協北地区センター7名、）
4 協議の内容	ひなんさんぽの進捗状況と高齢者避難の現状について（体験） 1. 開会 2. 挨拶 生活支援体制づくり協議体 会長 3. 自己紹介 新任のみ 3名 4. 協議内容 ①令和7年度 第1回協議体会議の振り返り *第1回開催報告書参照 ②ひなんさんぽの進捗状況について 細江：1月8日 油田のサロンを対象に実施 油田地区は都田川の堤防のすぐそばで、大雨が降ると道路が冠水する地区。 防災センターが避難所になっているが、高台のため、歩いていけない高齢者 が多い。少し高台に旧の公民館の跡地があるため、そこまでひなんさんぽを する。アルファ化米や他の防災食の配布も検討している。 引佐：2月18日 渋川のサロンを対象に実施 渋川地区の中央に旧渋川小学校がある。そこに一時避難 40 人くらいできる のではないかと考えている。ひなんさんぽという初めての試みだが、危険箇 所を散策しながら、小学校まで自治会、民生委員も交えて、一時避難の為に 散歩しようと思っている。皆さん高齢化しているため、全員が参加できるか 分からないが、できる方で経路を辿ってみたいと思う。 三ヶ日：3月中旬に西天のサロンを対象に実施 西天のサロンで実施について検討している。3月にサロンの参加者を対象に 実施をしたいという返事もらった。 ③体験で学ぶ高齢者避難の現状と地域の支え合いについて (1) 高齢者避難の現状について（体験） ※3 グループに分かれ、3つの体験をする。 ①高齢者疑似体験セットを装着・避難体験 ②水害 VR 体験 ③段ボールベッドの組み立てと持出し用品の確認

(2) グループにて意見交換

- ・体験を通してどのように感じたか
- ・避難が難しい高齢者が身近にいた時、どのような対応をとれるか
- ・今後ひなんさんをどのように活用できるか（自分の立場や所属で）

(A グループ)

避難所までに行くのに、平坦な道ばかりではない。高齢者を誘導するのに多くの人手が必要になりそう。車椅子で押していく方法のほかに、担架やリアカーなどの活用もしながらの避難が必要ではないか。有事の時に一人での避難は難しいため、自治会、民生委員、地域がどのように必要な方を把握しておくのか、誰の助けが必要か、いざという時の協力体制がとれるようにしておくのが重要だと感じた。

(B グループ)

高齢者に対して複数人で支援をしなければ難しい。特に平日の日中に災害が発生した場合は家族の支援が難しい。高齢者同士の普段からのコミュニティが必要になってくる。今回水害VRや高齢者の疑似体験等の体験をしたが、体験をした経験があるだけでも知識量が違い、ひなんさんぽの今後の課題や見え方が変わってくるのではないかと感じた。

(C グループ)

体験してみないと分からないことが多かった。車いすの方を階段で運ぶことを想定した時にこんなにも大変なのだと感じた。普段からコミュニケーションをとって助け合える関係を作っておくのが重要。近所の方の助ける担当を決めたり、複数で対応できる体制をとったり手厚いフォローができる。災害は平日の晴れた日に起こるとは限らない。土砂降りの雨の中で発生しても避難しなければいけない。ひなんさんぽも少し雨が降っている日など災害に近い環境でやってみるのもありなのではないかと感じた。

**5 今後の見通し・
必要な対応**

1月～3月にかけて3地区のサロンを対象にひなん散歩を実施予定。ひなんさんぽの実施を通して、避難経路や危険箇所への理解を深めるとともに、有事の際の地域のつながりづくりを図る。第3回はひなんさんぽ実施後に開催し、ひなんさんぽの報告と活用について協議する。